

会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	小倉都心地区(第4期)
開催日時	令和6年2月8日(木)13:30~15:00
開催場所	北九州市役所 14階 141会議室
出席者	<p>北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員</p> <p>座長 寺町 賢一 (九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授)</p> <p>牛房 義明 (北九州市立大学 経済学部 経済学科 教授)</p> <p>東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会 委員)</p> <p>横田きみよ (コンセプトピディア 代表)</p> <p>事後評価担当(事業課)</p> <p>建築都市局 都市再生企画課</p> <p>検討会事務局</p> <p>建築都市局 都市再生企画課</p>
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について (2)事後評価手続き等にかかる検討 (3)今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	<p>○事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</p> <p>○事後評価手続き等にかかる検討 (成果の評価について)</p> <p>牛房 構成員</p> <p>指標1「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」とその他指標1「夜間景観整備エリアを中心とした夜間の歩行者通行量」の変化を比較すると、一番の落ち込みがあった年度がそれぞれ令和2年、令和4年とずれている。減少の理由は同じコロナ禍の影響だと考えられるが減少のタイミングがずれている理由を事務局はどのように分析しているか。</p> <p>事務局</p> <p>はっきりとした分析は難しいが、令和2年が減少している理由は、令和2年、3年もコ</p>

コロナ禍であったものの、令和3年はコロナ感染第5波(同年8月～9月)直後の10月から11月に調査を実施しており、ちょうどプレミアム付お食事券による飲食店支援で通行量が増大した結果となったことで、特に令和2年が落ち込んでいる結果となったのではないかと考えている。

また、夜間の歩行者通行量における令和4年の落ち込みは、調査時期が同年12月に福岡県オミクロン警報が出た感染拡大時期と重なった影響を受け、通行量が落ち込んだのではないかと考えている。

寺町 座長

添付様式2-①「都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況」の指標3「小倉都心部の人口」について、目標値に達してはいないものの近年の傾向により改善しているとする「目標達成度△」と評価し、その達成できなかった理由に「目標が達成しなかったが・・・」との記述がある。この記述では達成できなかった理由の説明となっていないので、もう少し分析の内容を記述したほうがよい。

事業課

分析の内容を加え、記述を見直したい。

横田 構成員

歩行者通行量調査、観光客数といった指標は定量的調査と併せて、難しいとは思いますが、例えば商店街や地域の方がどのように感じているのか、という定性的な調査データがあってもいいと思う。そういった調査結果があれば成果評価に反映しやすいと思う。

事業課

ご意見に近いアンケート調査を小倉・黒崎にて毎年実施していて参考になるかもしれない。過去の調査結果では、黒崎地区の賑わいについて評価は高くなかったと記憶している。

東 構成員

観光客はおそらくインバウンドの影響で増えるなど伸びる余地はある。しかし、地域の人の通行量が増えるかということ難しいと思うので、今後も通行量の増加を指標とすると厳しい状況になるのではないかと。

事業課

ご指摘のとおり、指標1の対象となる歩行者通行量は必ずしも地域の人だけを対象にはしておらず、観光客も含めた数となっている。それらが増加することで回遊性向上に繋がっていききたい。

寺町 座長

公共交通事業者の見解では、アフターコロナでは乗客数は8～9割は戻ったがそれ以上は戻らないと聞いている。在宅勤務などで通勤が無くなるなどライフスタイルが変わった人が一定数いると分析されていた。

そういったことから、この指標が従来どおり事業効果で増加していくとの予測のもとに次期計画の目標値を設定すると、達成できないことに成りかねないので、目標値の設定には新たな視点が必要である。

(効果発現要因について)

寺町 座長

添付様式4-③「数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発言要因の整理」のうち、「(地域生活基盤施設)魚町馬借1号線」について、目標未達成への影響度として指標1～3まで、数値目標が達成できなかった中でもある程度の効果をあげたと思われる「△」と評価している。先ほどの事業課の説明では、この事業はまだ完了していないとのことだったので、例えば歩行者通行量に影響を及ぼしたのかという疑問がある。同じく、その他の指標1の夜間の歩行者通行量に貢献しましたという評価にも疑問がある。

事業課

ご意見のとおり。事業が完了していないものについては、評価に影響していないとする「―」としたい。

横田 構成員

生活様式の変化などで歩行者通行量の実態も変化していくと思われるので、そこを踏まえた各種事業の実施が重要となる。そういった意味で、今添付様式4-③で指標1の「改善の方針」の中で各種事業の強化をしていくとしているが、強化は今までの延長上と捉えられる。今後は時代の変化をしっかりと捉え、新たな計画を立てていく必要がある。

事業課

ご指摘のとおり、今の表現では現在の事業を延長していくという表現になっている。生活様式の変容、市の新たな基本構想など、新たな時代の変化を捉えて、次期計画を打ち立てていきたいので、そういった記述に見直す。

横田 構成員

添付様式4-③指標2「小倉都心部における観光客数」の改善の方針において、「エリア価値の向上に繋げる」とあるが、価値の向上に繋いだことを「伝える」ことが重要だと思う。今回、現地視察に参加して、事業は「面」で考えて実施していることに気づいた。街が「点」で変わっていることは知っていたが「面」で変えようとしていることは、意外と伝わっていない。その視点をプラスアルファで行っていくことが必要である。

事業課

情報発信していくことも私たちの重要な役割であるので、市民の皆様にご各事業が街にどういった効果を与えているのか、しっかり伝わるよう努力したい。

(事後評価原案の公表について)

牛房 構成員

今回いただいたご意見は、市政だより、ホームページ、SNS のどの方法で回答したのかはわかるのか。

事務局

メールで意見を提出された方は SNS の意見募集広報を見たとのこと。

**○今後のまちづくりの方策の作成について
(今後のまちづくりについて)**

横田 構成員

添付様式5-③「今後のまちづくり方策」ののシートのうち、(A 欄)「効果を持続させるために行う方策」の基本的な考え方と(B 欄)「改善策」の基本的な考え方の記述が同じものになっている。アフターコロナを踏まえて視点を変えた書き方をしてもよいのではないか。

事務局

ご指摘を踏まえ、記述を見直したい。

横田 構成員

旦過事業を説明する冊子や夜間景観の普及のための冊子など、すごくいいものがあるが、どうしても手にする人は限られてしまう。WEB 上で見ることでたらどんなにいいだろうと思う。

東 構成員

現在の市のホームページはなかなか情報まで辿り着かない。それも含め、事業のことを市のホームページで手軽に見ることができるようになるとなといい。

事務局

市の情報発信、ホームページの課題についてはこれまで色々な指摘やご意見をいただき試行錯誤を重ね、今の形になっている。

寺町 座長

事業を実施し、それを上手くPRできれば、効果が2倍になる。前向きに検討していただきたい。

牛房 構成員

先ほどの添付様式4-③各指標の達成に向けた「改善の方針」があったが、添付様式5-③の今後のまちづくり方策の「改善策」へ反映させてはどうか。

寺町 座長

定住人口の増加を目標としているのに、今の改善策ではそのための方策が読み取れない。

事務局

ご指摘を踏まえ、記述を見直したい。

牛房 構成員

観光資源の磨き上げとあるが、小倉にしかない観光資源というものがあると思う。昨年11月に開催された国際映画祭とかもとてもいいと思う。

横田 構成員

小倉にしかない資源といえば、小倉城があるが、天守閣をコワーキングスペースとしても利用できるといった投稿を公式SNSで見た。観光施設にパソコンで仕事という日常を持ち込むと、非日常である観光気分を台無しにし、問題だと思う。

東 構成員

小倉城は現存ではなく、復元だから、思い切った活用をしてもいいのではないか。

事務局

愛すべき観光資源として、しっかりPRしていく。

横田 構成員

観光資源を回るルート設定やモデルルートというものがあるか。どうも整理していないように見える。先ほどの意見と重なるかと思うが、プロジェクト化など役割分担をして横のネットワークを強めていくことが大切だと思う。

事務局

そういった意味では区役所も地域の身近な部門であると認識している。今後の研究とさせていただく。

(事後評価手続き及び今後のまちづくり方策の確認について)

寺町 座長

事後評価の手続きは適切か。今後のまちづくり方策は妥当か。

全委員

異議なし